

数値が大きいことを表す「高い」「大きい」 の類義用法

—BCCWJ を資料としたコーパス分析—

生天目 知美・永井 涼子

要 旨

本稿は、数値に関わる名詞と共起する「高い」「大きい」の類義用法を取り上げ、その使い分けについて BCCWJ を使用したコーパス分析により明らかにしようとしたものである。コーパス分析の結果から、両形式と共起する名詞をコロケーションの強さの程度によって5種に分け、数値に関わる名詞と共起する「高い」「大きい」の意味を抽出した。さらに、どちらの形式とも共起可能な名詞について使用されたコーパスジャンルを調査したところ、分布に違いが見られなかった。しかしその一方でどちらかの形式の使用がより適切となる文脈も存在することから、使用の分布にずれが見られるタイプを列挙し、それらのずれが「高い」「大きい」の持つ意味と密接に関係することを指摘した。

キーワード

コーパス分析 類義用法 形容詞 「高い」 「大きい」

1 はじめに

日本語教育における文法や語彙の指導のため、近年コーパスを用いた研究が増えている。研究者の言語直感・内省に基づく研究手法は、その直感や内省がどれほど優れたものであっても必ずしも使用実態が反映されているとは限らず、また個人の語彙力には限界があり、ジャンルによっては語彙量の偏りが見られることもある。一方、コーパスは豊富な実例の宝庫であり、母語話者コーパスは日本語の実態を客観的につかむのに有効であると言える(大曾 2006)。特に「一般的な文法規則に則って共起する語と語の慣用的な結びつき、またはその語句」(小池他 2003)を指すコロケーションの研究において、コーパスを用いた研究の有用性が指摘されており(大曾 2002)、漢語名詞「影響」を分析した中溝(2012)、複合動詞「V1-通る」を分析した杉村(2012)などの様々な研究が行われている。

また、類義語研究においても、コーパス分析を手法としたコロケーションの研究が見られる。例えば、大曾(2002)では「影響」「刺激」「感動」を中心に動詞あるいは動詞句としての用法を比較分析しており、中溝(2011)では類義語である「進歩」と「向上」を取り上げ、共起する動詞、修飾語、熟語等について分析が行われている。このようなコーパス分

析から得られた情報は国語辞典に記載されていないものが多く、日本語学習者に大変重要であることから、積極的な記述が望まれる(大曾 2002、小池他 2003)。

本研究は日本語学習者のためのコーパスに基づく類義語研究の一環として、国立国語研究所による「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を用いて類似用法を持つ形容詞「高い」「大きい」を分析する。先行研究では秋元(1999)、服部(2011)、茂木(2012)などが「確率」「可能性」などの程度名詞と、「大きい」「高い」などの形容詞との共起関係についてコーパスに基づく分析を行なっている。これらの研究によって程度名詞はそれぞれ共起する形容詞が決まっているが、複数の形容詞と共起するケースもあり、「高い」「大きい」は中でも比較的広範囲に用いられていることが明らかになっている。

日本語教育では形容詞「高い」「大きい」は初級の早い段階で提出される基礎的な語彙である。初級では「高い」は以下の(1)(2)の意味、「大きい」は(3)(4)の意味で学習されるが、これらの意味では「高い」「大きい」の使い分けは問題にならない。

- (1) 【上方までの距離が大きい】あの人は背が高い。
- (2) 【金銭的に額が大きい】このテレビは高い。
- (3) 【規模が甚だしい】東京は大きい町です。
- (4) 【面積・体積・寸法等が大である】このテレビは大きいです。

しかし、その後中上級でその用法が広がっていくと「高い」「大きい」の意味用法が類似するケースが出てくる。例えば数値に関する名詞と共起する場合にその数値が大きいことを表す場合には「高い」「大きい」がどちらも使用可能だが、使用可能な範囲に違いがある。以下の(5)の「所得」については「高い」「大きい」が共に許容されるのに対して、(6)の「離職率」では「高い」のみが、(7)の「震度」では「大きい」のみが許容される。

- (5) 夫の所得が(高い/大きい)ほど、妻が無職の場合が多い。
- (6) 3年以内の離職率が(高い/*大きい)。
- (7) 地震の震度が(*高い/大きい)。

「高い」「大きい」は初級語彙であるためか、中上級で問題になるこうした用法は教科書や類義語辞典で取り上げられることがない。そこで本稿ではこうした数値の大きいことを表す「高い」「大きい」の類義用法を取り上げ、コロケーションや用例分析からその共通点・相違点を明らかにし、使い分けを詳細に記述することで日本語教育の現場での指導の一助としたい。

2 「高い」「大きい」の意味と分析対象

形容詞「高い」「大きい」は明鏡国語辞典によると、以下のように意味分類がされている。

表1 「高い」の意味分類(明鏡国語辞典)

①上方への距離 が大きい	ア)基準点から情報に存在する物までの距離が大きい。 例)ボールを高く放り投げる、太陽が高く昇る
	イ)物の下端から上端までの距離が大きい 例)背丈が高い、枕を高くして寝る
	ウ)鼻・筋肉・乳房などの盛り上がり方が大きい
②物事の程度が 普通より上であ る	ア)価値・効果や評価・格付けなどが上である 例)利用価値[経済効果・評判]が高い
	イ)社会的な立場や職階が上である 例)地位が高い
	ウ)能力等が水準よりすぐれている 例)教養が高い
	エ)品位・品格がすぐれている 例)格調が高い
	オ)自分の品格を頼み、それを保持しようとする意識が強い 例)プライド[気位]が高い
	カ)志や目標がより上にある 例)志[理想]が高い
	キ)音や声の音程が上である 例)ソプラノの高い音
	ク)音量が大きい 例)声が高い。静かにしろ
ケ)香りが強い 例)香りの高い花	
③ 数量化したものの程度が大きい 例)温度[血圧・緯度・正解率]が高い	
④ 金銭的に額が大きい 例)値段が高い、利息が高い	
⑤ 自慢げなさま(「鼻が-」などの形で) 例)君が優勝して私も鼻が高い	
⑥ よい鑑識眼を持っている(「お目が-」の形で) 例)お目が高い	
⑦ 名が通っている、有名だ(「名が-」の形で) 例)才媛の名が高い	

表2 「大きい」の意味分類(明鏡国語辞典)

① 物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大である 例)体が大きい、しきりが大きい、サイズが大きい、夕日が大きく見える	
② 音の量が大きい 例)電話の音が大きい、テレビの音を大きくする	
③ 年が上である 例)大きい方のお兄さんにしかられた	
④ 物事の規模や程度が甚だしい(数量的に) 例)金額が大きくて買えない、規模が大きい、貧富の差が大きい	
⑤ その程度・可能性・傾向などが甚だしいさま(数量を感覚的に捉えて) 例)兄の影響が大きい、再発する可能性が大きい、騒ぎが大きくなる	
⑥ [人の態度・性 向・発言などに ついて慣用句的に]	ア)度量や包容力がある 例)肝っ玉が大きい、気が大きい
	イ)大袈裟である 例)話が大きい、大きいことばかり言う
	ウ)分をわきまえずに偉そうにするさま 例)態度が大きい

本稿で分析対象とする数値の大きさを表す「高い」「大きい」は、表1・表2に示した語義のうち以下のものとする。

- 「高い」……①イ)「物の下端から上端までの距離が大きい」
②「物事の程度(価値・効果や評価・格付けなど)が普通より上」
③「数値化したものの程度が大きい」
④「金銭的に額が大きい」
「大きい」…①「物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大」
④「物事の規模や程度が甚だしい(数量的に)」
⑤「その程度・可能性・傾向などが甚だしいさま」

さらに本稿ではこれらの意味内容の中でも、具体的数値を想定できる名詞と共に起る場合に限定する。例えば、以下の(8)は離職率について「～%」と具体的な数値が想定できるのに対し、(9)の利用価値は具体的な数値が想定しにくい。そこで(9)のような用例は今回の分析対象から外すことにする。

(8) 離職率が高い

(9) 利用価値が高い

3 コーパスとデータの抽出方法

本稿が用いるコーパスは国立国語研究所による「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese:以下 BCCWJ)である。BCCWJは書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、Yahoo!ブログ、Yahoo!知恵袋(ネット掲示板)、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億450万語のデータを格納した均衡コーパスであり、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築されている。

BCCWJからデータを抽出する検索方法として、オンライン検索システムである「中納言」(ver.1.0.5)¹を用いる。検索対象は「高い」「大きい」のうち叙述用法の「(名詞)が高い/大きい」のみとし²、「高い」「大きい」はその活用形を全て抽出した。分析対象とするデータを収集した結果、「(名詞)が高い」の全用例は9,355例、「(名詞)が大きい」は6,285例であった³。検索結果から共起する名詞を抽出し、「高い」「大きい」それぞれの頻度調査を

¹ 国立国語研究所が開発した BCCWJ のためのオンライン検索ツール。http://chunagon.ninjal.ac.jp を参照。

² 主格「が」は「は」「も」などの形態で現れることも考えられるが、本稿では「が」で出現した用例のみに限定する。また、「高い」「大きい」については「数値が大きくなる/変化した」のような副詞的用法は対象外とする。ただし、「Nが高くなる/大きくなる」は叙述用法を強く残していると捉え、分析対象とした。

³ なお、「高い」「大きい」の統語パターンを NLB(NINJAL-LWP for BCCWJ:ver1.00)にて検索したところ、「高い」は「高い+名詞」が最も多く(8,057例)、次いで「～が高い」(6,273例)、「大きい」は「大きく+動詞」が最も多く(10,217例)、次いで「～が大きい」(5,295例)であった。「(名詞)が高い/大きい」はどちらも2番目に頻度が高いパターンである。秋元(1999)では程度名詞と形容詞の組み合わせでは叙述用法の方が名詞修飾用法よりも圧倒的に多いと指摘している。今回の NLB の結果は実質的にどちらの用法なのか判断を行っていないため、この結果が何を示しているのか今後検討していきたい。

行った。以下の4節ではその結果を示す。

4. 「(名詞)が高い/大きい」の頻度分析結果

4.1 「高い/大きい」と共起する名詞

ここでは「(名詞)が高い/大きい」が共起する名詞の全体像を示す。中納言を用いて検索した用例の中で、「高い」「大きい」に共起する名詞の上位20位までの20語は以下のようになる。

まず、「高い」と共起する名詞上位20位を表3に示す。最も多かった「可能性」が1,025例あり、第2位の「割合」(411例)の2倍以上の高頻度であった。日本語教育の初級レベルで学習する「上方への距離が大きい(明鏡①)」「金銭的に額が大きい(明鏡④)」という意味に相当する名詞としては、3位の「背/身長が高い」、8位「値段が高い」、15位「価格が高い」があった⁴。

表3 「高い」と共起する名詞(総数9,355例)

順	名詞	頻度	順	名詞	頻度
1	可能性	1,025	11	効果	99
2	割合	411	12	危険性	96
3	背/身長	387	13	湿度	94
4	比率	219	13	年齢	94
5	～の方	195	15	価格	84
6	人気	180	16	評価	83
7	確率	153	17	濃度	81
8	値段	150	18	価値	76
9	頻度	130	19	能力	71
10	レベル	109	19	声	70

その他の意味としては、最も用例が多かった「可能性」を含む「数値化したものの程度が大きい(明解③)」が目立ち、「割合(2位)」、「比率(4位)」、「確率(7位)」、「頻度(9位)」、「危険性(12位)」、「湿度(13位)」、「年齢(13位)」、「濃度(17位)」などがある。また、「価値・効果などが上である(明解②ア)」という意味も、「人気(6位)」、「レベル(10位)」、「効果(11位)」、「評価(16位)」、「価値(18位)」が見られた。これら2つの意味で使われる名詞は旧日本語能力試験の2級程度が多いことも特徴であり、「高い」という語彙そのものが初級語彙であっても、「高い」が持つ意味の広がりでの学習と共に中級や上級で学習する語彙とのコロケーションの学習も必要になると考えられる。

⁴ ただし「値段」「価格」自体の難易度はそれぞれ旧日本語能力試験の3級と2級相当である。

次に「大きい」と共起する名詞の上位20位を表4に示す。

表4 「大きい」と共起する名詞(総数6,285例)

順	名詞	頻度	順	名詞	頻度
1	～ところ	285	11	割合	80
2	影響	213	11	サイズ	80
3	～の方(ほう)	144	11	子ども(子供／子どもたち)	80
4	規模	138	14	リスク	74
5	可能性	127	15	伸び	72
6	声	116	16	～こと	70
7	負担	109	17	被害	57
8	体(身体)	89	18	部分	55
9	差	83	19	役割	52
10	効果	82	20	目(眼)	49

最も高頻度の名詞は「～ところ」で285例観察された。以下の(10)のように空間的に大であることを表すのではなく、「～の影響が大きい」といった慣用的な用法で用いられる用例も多かった。

(10) 速やかな対応が採れたか否かは企業トップの能力と資質に負うところが大きい。

(書籍)

「大きい」は「高い」の「可能性が高い」のように突出して共起することが多い名詞が見られず、最も高頻度の「～ところ」も2位の「影響」との差が非常に大きいというわけではない。「大きい」の意味としては、第2位の「影響」を含む「その程度・可能性・傾向などが甚だしいさま(数量を感覚的に捉えて)(明鏡⑤)」が多く、「影響」の他に「可能性(5位)」、「負担(7位)」、「効果(10位)」、「割合(11位)」、「リスク(14位)」、「伸び(15位)」、「被害(17位)」、「役割(19位)」と8つの名詞が含まれており上位20位の多くを占めている。また、「物事の規模や程度が甚だしい(数量的に)(明鏡④)」という意味を表す「規模(4位)」、「差(9位)」も見られた。この他に11位「子ども(子供／子どもたち)」には、上述の「物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大である(明鏡①)」という意味以外にも「年が上である(明鏡③)」という意味の用例もあった。

日本語教育の観点からは、初級レベルで学習する「物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大である(明鏡①)」という意味に相当する名詞として「体(身体)11位」、「サイズ(11位)」、「子ども(子供／子どもたち)(11位)」、19位「目(眼)」があった。さらに

上記の(10)「～ところが大きい」と同様の慣用的用法を持つ名詞として、「～の方(ほう)が大きい」(3位)、「～ことが大きい(16位)」、「～部分が大きい(17位)」なども挙げられる。

- (11) 手の内を見せるマイナスよりも、世界的にインパクトを与えるプラスの方が大きい。(書籍)
- (12) 素直にアドバイスを受け入れてくれたことが大きい。(書籍)
- (13) 法律で細かく決まっているわけではないので、裁判官の裁量の部分が大きい。(書籍)

これらの意味で使われる名詞は「高い」と同様に旧日本語能力試験の2級程度が多く、語彙そのものが初級語彙であっても、中上級の学習語彙とのコロケーションの学習も必要になると考えられる。

4.2 数値が大きいことを表す「(名詞)が高い/大きい」で共起する名詞

次に数値が大きいことを表す「高い」「大きい」に限定した場合、「高い」「大きい」がそれぞれどのような名詞と共起するか調査した。以下の表5、表6に上位15位の名詞とその頻度を示した(網掛けは「高い」「大きい」に共通して共起する名詞)。

表5 数値に関わる「(名詞)が高い」

順	名詞	頻度
1	可能性	1,025
2	割合	411
3	背/身長	387
4	比率	219
5	確率	153
6	値段	150
7	頻度	130
8	危険性	96
9	温度	94
9	年齢	94
11	価格	84
12	濃度	81
13	リスク	68
14	湿度	61
15	密度	58

表6 数値に関わる「(名詞)が大きい」

順	名詞	頻度
1	可能性	127
2	差	83
3	割合	80
3	サイズ	80
5	リスク	74
6	伸び	72
7	容量	43
8	面積	42
9	変動	37
10	公算	35
11	恐れ	27
12	度合い	26
13	値	22
14	速度	20
15	数	18

まず、「高い」「大きい」に共通して共起する名詞は、上位15位の名詞の中で「可能性」「割合」「リスク」の3つのみである。表5と表6から「可能性」「割合」は「高い」と共起する頻度が高いが、「リスク」は「大きい」との共起が多いことが分かる。

まず、「高い」に共起する名詞の特徴について述べる。まず、表5の1位から4位までが前節で示した「高い」と共起する名詞全体の1位～4位と同じであることが挙げられる。表5の12位(「濃度」)までの名詞も「高い」と共起する名詞全体の上位20位に含まれており、「高い」は数値を表す名詞と共起する傾向が高いことが分かる。

また共起する名詞の意味を大まかに分類すると、「数値化したものの程度が大きい(明解③)」では、「可能性」「確率」「頻度」「危険性」「リスク」などの「出来事が起こる確率」を表す名詞、「割合」「比率」などの「全体に占める割合」を表す名詞、「温度」「濃度」「湿度」「密度」などの「測定値」を表す名詞の3つに大きく分けられる。また、「金額的に額が大きい(明解④)」の意味では、「値段」「価格」が含まれている。

次に「大きい」に共起する名詞の特徴について述べる。まず前節の表4で示した「大きい」と共起する名詞全体の上位20位以内に含まれるのは、「可能性」「差」「割合」「サイズ」「リスク」「伸び」の6つの名詞である。全体的に見て「高い」ほど数値に関わる名詞の使用割合が高いわけではなく、「大きい」は多様な意味の名詞と共起することが分かる。

「大きい」が共起する名詞を大まかな分類別に見ていくと、「その程度・可能性・傾向などが甚だしいさま(数量を感覚的に捉えて)(明鏡⑤)」では、「可能性」「割合」「リスク」「公算」「恐れ」などの「割合」を表す名詞がほとんどで、その他には「伸び」や「度合い」などが見られた。また、「物事の規模や程度が甚だしい(数量的に)(明鏡④)」では「差」「変動」など「二者の差」を表す名詞、「数」「値」といった「何らかの値」を表す名詞に分けられる。なお、「速度」も表6に含まれている「何らかの値」を表す名詞であるが、「速度が大きい」が使用されているコーパスは、総数20例のうち、自然科学系13例、技術・工学系4例、理科の教科書2例、社会科学系1例と全てが理系のコーパスであり、コーパスに偏りが見られることから今回の分析対象から外すこととする。明鏡⑤の意味で分類できなかった「伸び」と「度合い」も、「伸び」は「二者の差」を表す名詞、「度合い」は「何らかの値」を表す名詞に分けられる。また、「物体が空間を占める量が多く、面積・体積・寸法などが大である(明鏡①)」の意味では、「サイズ」「面積」「容量」が含まれている。

次に、「高い」「大きい」がそれぞれ高頻度で共起した名詞について、もう一方の形式ではどの程度共起しているのか比較を行なう。まずは「高い」と共起した上位15位の名詞について、「大きい」が共起した頻度と比較したものが以下の表7である。

表7 「高い」のコロケーション(「大きい」との比較)

順	名詞	「高い」との共起数	「大きい」との共起数
1	可能性	1,025	127
2	割合	411	80
3	背/身長	387	4
4	比率	219	15
5	確率	153	2
6	値段	150	0
7	頻度	130	0
8	危険性	96	16
9	温度	94	0
9	年齢	94	2
11	価格	84	0
12	濃度	81	3
13	リスク	68	74
14	湿度	61	0
15	密度	58	7

表7に示したように、「大きい」でも共起が見られるのは、「可能性」「割合」「背/身長」「比率」「確率」「危険性」「年齢」「濃度」「リスク」「密度」であったが、そのうち「背/身長」「濃度」「確率」「年齢」は「大きい」の用例が5例未満だった。また、「大きい」とは全く共起した例がなかったのは、「値段」「価格」「頻度」⁵「温度」「湿度」の5つであった。下の例に示すように、実際の用例で確認しても「大きい」との共起が許容されにくい。

- (14) (ホワイトゴールドは) シルバーと違って変色もしないし、値段が高くない(??大きくないので、最近よく見かけます。 (yahoo!知恵袋)
- (15) いくらよい素材で美味しかったとしても、価格が高い(??大きい)と購入ターゲットから外されます。(書籍)
- (16) マウスは使う頻度が高い(??大きい)ので、よいものでないと作業能率も下がります。(書籍)
- (17) 砂糖は温度が高い(??大きい)ほど溶解度が大きく溶解速度も速い。(書籍)
- (18) 雲は湿度が高い(??大きい)と低いところに、湿度が低いと高いところにできる。(教科書)

⁵ ただしインターネットで検索を行うと、「頻度が大きい」の用例は見られる。(例)どうも癌は、細胞が再生を繰り返す頻度が大きいほど癌になりやすい。(ブログ)

次に「大きい」と共起した上位15位の名詞について、「高い」が共起した頻度との比較を示したものが表8である。

表8 「大きい」のコロケーション(「高い」との比較)

順	名詞	「大きい」との共起数	「高い」との共起数
1	可能性	127	1,028
2	差	83	0
3	割合	80	411
4	サイズ	80	0
5	リスク	74	68
6	伸び	72	26
7	容量	43	0
8	面積	42	0
9	変動	37	0
10	公算	35	5
11	恐れ	27	3
12	度合い	26	17
13	値	22	24
13	速度	20	3
15	数	18	0

表8に示したように、「高い」との共起が見られるのは、「可能性」「割合」「リスク」「伸び」「公算」「恐れ」「度合い」「値」であったが、そのうち「恐れ」は「高い」の用例が5例未満だった。また、全く共起した例がなかったのは、「差」「サイズ」「面積」「変動」「容量」「数」である。以下の例のように、これらの名詞は「高い」との共起が許容されにくい。

- (19) 研修病院の給与は、病院によって差が大きい(??高い)。 (書籍)
- (20) そのメールに添付されているファイル(書類)が、サイズが大きい(??高い)ので小さく圧縮してあります、という意味です。 (知恵袋)
- (21) 面積が大きい(??高い)部分はクリームとかミルクとかのほうが伸ばしやすいし。 (ブログ)
- (22) 家計貯蓄率の方がやや変動が大きい(??高い)が、両者ともほぼ同様な傾向を示している。 (白書)
- (23) ICメモリーよりも段違いに容量が大きい(??高い)。 (書籍)
- (24) どうやら子どもたちは数が大きい(??高い)ことを「高い」と表現しているようであ

る。 (出版)

以上の「高い」「大きい」が共起する上位15位の名詞との頻度調査からコロケーションの強さをまとめると以下の表9ようになる。用例がどちらも5例以上ある場合には「どちらも可能」とし、5例未満の場合には「優勢」とした。

表9 「高い」「大きい」が共起する上位15位の名詞とのコロケーション度合い

共起の度合 意味タイプ	「高い」 のみ	「高い」 優勢	どちらも 可能	「大きい」 優勢	「大きい」 のみ
出来事が 起こる確率	頻度	確率	可能性,危険性, 公算,リスク	恐れ	
全体に 占める割合			割合,度合い 比率		
測定値	温度,湿度	濃度	密度,値		数
金額	値段,価格				
二者の差			伸び		差,変動
空間を 占める量					サイズ,面積 容量
上方への 距離		背/身長,年 齢			

4.3 数値の大きさを表す「(名詞)が高い」と「(名詞)が大きい」の意味

共起する名詞の分布調査で明らかになったように、「大きい」とは共起せず「高い」と共起する名詞は「温度」「湿度」「値段」「価格」「頻度」などがある。これらの名詞はある基準に基づく尺度という意味特徴を共通に有しており、このような名詞と共起する「高い」は「当該の数値的表現がある尺度上において(相対的に)上方にある」を意味すると言える。例えば下の(25)「マウスは使う頻度が高い」は、0回から1回、2回、…10回、100回…のように頻度の尺度(スケール)がある中で、「パソコンの周辺機器として一定時間の中で使用する回数がある基準以上で相対的に上位にある」ことを示している。

(25) マウスは使う頻度が高い(??大きい)ので、よいものでないと作業能率も下がります。
(書籍)

一方、「高い」とは共起せず「大きい」と共起する名詞は「差」「変動」「サイズ」「面積」「容量」「数」がある。これらの名詞に共通する意味特徴は、総量を表す点である。したが

って、このような名詞と共起する「大きい」は「任意のあるところからあるところまでの総量」を意味すると言える。例えば以下の例を見ると、病院の給与の差とは、ある病院と別の病院との給与額を比べた際の金額の違いを指す。つまり、「高い」のように給与の差を測る何等かの尺度が存在するのではなく、相対的な違いの金額量を表している⁶。

(26) 研修病院の給与は、病院によって差が大きい(??高い)。 (書籍)

以上、共起する名詞の分布から、「高い」が「当該の数値的表現がある尺度上において(相対的に)上方にある」ことを示すのに対し、「大きい」は「任意のあるところからあるところまでの総量」を示すものと考えられる。

ここまでは「高い」「大きい」が共起する名詞の分布について、その違いの観点から分析を行ってきた。次の5節では「高い」「大きい」がどちらも共起できる名詞について、その使い分けを分析する。

5 名詞が共通する「高い／大きい」の使い分け

5.1 「高い／大きい」が出現するジャンルの分布

前述の表9で示した「高い」「大きい」がどちらも共起可能な名詞に注目し、コーパスの各ジャンルによる使用割合に違いがあるかどうか調査した。BCCWJに含まれるコーパスのジャンルは音声言語と文字言語、フォーマルとインフォーマルという2つの観点から各ジャンルを類別することができる。代表的なジャンルである「書籍」「国会会議録」「Yahoo!知恵袋」「白書」の特徴を整理すると、図1のようになる。

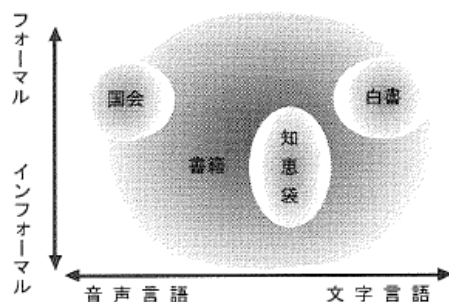


図1 各ジャンルの特徴(鄭他 2009 より抜粋)

4つのジャンルの中で音声言語が収録されているのは「国会会議録」のみで、かつフォ

⁶ 「大きい」は一見総量とは結びつきにくい「数」とも共起する。「数が大きい」の場合の「数」は、「今日は参加している人の数が多い」の「人の数」のような数えられる数ではなく、「数字」という意味で使用している例が多い。例えば、以下の例では「表わそうとする数が大きい」という場合の数は「数字」を表す。つまり、1、2、3、4のように数字のサイズが大きくなるという意味で用いられている。

例) 2進数は、表わそうとする数が大きく(??高く)なると桁数がとても多くなります(書籍)。

一マルなジャンルである。「国会会議録」の他は基本的には文字言語と言える。文字言語の中で最もインフォーマルなものは「Yahoo!知恵袋」であろう。これは不特定多数のインターネットユーザー同士が相談しあう掲示板であり、やりとりが公開されるためある程度のフォーマル度はあると考えられるが、ユーザーによってスタイルは様々であり相手とのやりとりがあるため話し言葉的要素も散見される。「白書」は、「教科書」などと同様に不特定多数の読者に対して公的に情報を提供するためフォーマル度が高いと言える。最も多様性を包含するジャンルは「書籍」である。小説等の会話文、直接読者に語りかけるスタイルが含まれる可能性があり、フォーマル度・文字言語らしさに様々な度合いがある用例が含まれていると考えられる。

以下の表10は、表9で示した意味カテゴリーで使用例が最も多い名詞について、各コーパスでの出現頻度を示したものである(出現頻度の上位2位に網掛けを付した)。その結果、全体的に「書籍」「白書」で用いられることが多いこと、また「高い」「大きい」の出現頻度が高いジャンルが同じだけではなく、その出現の割合までも類似していることが分かった。表10に挙げられていない共通の名詞についても各ジャンルでの出現頻度が類似しており、この結果から、共起可能な名詞と共に使用される「高い」「大きい」は、コーパスジャンルによる使い分けがされていないことが分かる。

表10 「高い」「大きい」に共起可能な名詞のコーパス別分布(上段:用例数/下段:割合)

用例	国会	知恵袋	ブログ	書籍	雑誌	新聞	広報誌	白書	教科書
可能性が 高い(1025)	23 2.2%	183 18.0%	101 9.9%	573 55.9%	51 5.0%	37 3.6%	24 2.3%	35 3.4%	1 0.1%
可能性が 大きい(127)	3 2.4%	17 13.4%	11 8.7%	78 61.4%	5 3.9%	3 2.4%	0	10 7.9%	0
割合が 高い(411)	2 0.5%	3 0.7%	3 0.7%	82 19.9%	2 0.5%	4 1.0%	7 1.7%	303 73.7%	5 1.2%
割合が 大きい(80)	0	1 1.3%	1 1.3%	16 20.0%	0	0	1 1.3%	58 72.5%	3 3.8%
値が 高い(24)	1 4.1%	2 8.3%	1 4.1%	16 66.7%	3 12.5%	0	0	1 4.1%	0
値が 大きい(22)	0	0	0	14 63.6%	4 18.2%	0	0	2 9.1%	2 9.1%
伸びが 高い(27)	0	0	0	0	0	0	0	27 100%	0
伸びが 大きい(72)	2 2.8%	0	0	2 2.8%	0	1 1.4%	0	67 93.1%	0

ジャンル分布の調査から、「高い」「大きい」の両方に共起可能な名詞の場合には、コーパスジャンルによる使用割合の違いが見られないことが明らかになったが、実際に使用される文脈は異なることも十分予想される。そこで次節では表10で取り上げた「可能性」「割合」「値」「伸び」について用例分析を行い、「高い」「大きい」の文脈による使い分けについて記述していく。

5.2 用例分析による「(名詞)が高い／大きい」の使い分け

それぞれの用例における「高い」「大きい」の互換可能性を調べると、「高い」「大きい」に共起可能な名詞の場合、互換可能な場合が多くある一方で、互換しにくいケースがあることが分かる。以下では「可能性」「割合」「値」「伸び」の4つの名詞について、どのようなケースで互換がしにくいのか、分析した結果を述べていく⁷。

【1】「可能性が高い／大きい」

明鏡国語辞典によると、「可能性」には以下の2つの意味がある。

- ①実現できるという見込み、現実となり得る見込み(以下「実現可能性」と呼ぶ)
- ②何かを実現できる潜在的な要素(以下「潜在的可能性」と呼ぶ)

前者の「実現可能性」では「高い」「大きい」で互換可能なケースが大部分であった。

(27) 血管がもろくなるので他の人より脳梗塞を起こす可能性が高い(○大きい)と言われてきた。 (新聞)

(28) 1位で指名しないと他の球団に指名されてしまう可能性が大きい(○高い) (書籍)

しかし、「高い」は判断根拠の存在及び見込みの相対的な強さが、一方の「大きい」は主観的判断の存在及び見込みの相対的な弱さが、それぞれ感じられることがある⁸。以下の歴史的可能性の記述をしている(29)の「高い」を「大きい」に置き換えると可能性が相対的に低くなる印象を持ったり、(30)の「大きい」を「高い」に置き換えると可能性が相対的に増し、郷里が同じだというだけで以前からの知り合いだと判断することへの違和感を感じたりする。

(29) 縄文土器は女性が製作していた可能性が高い(c.f.大きい)。 (書籍)

(30) (A氏はB氏と)郷里が同じだったと思います。だから以前からの知り合いだった可能性が大きいですね(c.f.高いですね)。 (書籍)

⁷ 用例では、まず実際に使用された形式に下線を付して示し、その後括弧の中にもう一方の形式による互換可能性を○△×で示す。

⁸ 秋元(1999)も個人的判断によって異なるとしながらも、「可能性」と共起する時、「大きい→高い→強い」の順に確信度の度合いが高くなると指摘している。

次に「可能性」の2つ目の意味である「潜在的可能性」の場合、「大きい」のみが使用可能である。次の例は、老年向けのサービス市場が今後広がるという予測を述べているが、このような潜在的に持つ可能性が広がるという意味の時、「大きい」のみ可能で「高い」は使用しにくい。

- (31) 現時点では、老年向けの情報量は若者向けほど多くはないが、今後、市場としての可能性が大きくなる(×高くなる)につれて、メディアは一層積極的に動くだろう。
(書籍)

以上のように「可能性が高い／大きい」は実現可能性の意味の場合には基本的に互換可能であるが、客観的根拠の有無、見込みの強弱などによってどちらかに使用が偏るケースもある。また、潜在可能性の意味については「大きい」のみで「高い」は使用できない。

【2】「割合が高い／大きい」

数値的意味に関わる「割合」の意味は、明鏡国語辞典によると「全体と比べた比率」である。「高い」「大きい」が共起する時、「割合」の意味そのものではなく、割合のどこに注目して述べるのか、その状況に違いがあった。以下では3つのパターンに分けて記述する。

まず1つ目は最も典型的な、複数のものが集まって全体を構成している中での、ある項目がその全体に占める比率が大であることに注目するパターンである。このパターンでは「高い」「大きい」のどちらもが使用可能である。以下の(32)では様々な職業の人たちで構成される町全体のうちの自営業者と農家の割合、(33)では応用研究や開発研究を含めた研究全体の中の基礎研究の割合に着目している。

- (32) 人口規模が小さい町村部ほど自営業者や農家の割合が高い(○大きい)。 (白書)
(33) フランスは日本、米国と比較して研究費に占める基礎研究の割合が大きく(○高く)、約二十%の水準を保っている。 (白書)

次に「高い」の使用がより一般的なパターンがある。「A と非 A を比較して A の方が X の割合が大であること」ことを述べるパターンで、この時は「大きい」の許容度が落ちる(例 34,35,36)。このパターンでは全体量については余り注目されず、A と非 A の割合を比較することが主眼となる。以下の(34)ではカカオがカカオ以外の成分と比較して、ある一定の基準よりも割合が多いこと、(35)では様々な年齢層を比較し、他の年齢層より高年齢の方がスポーツをする割合が多いことに着目されている。

- (34) 媚薬効果を期待してチョコレートを食べるのであれば、カカオの割合が高い(×大きい)ものの方がいいでしょうね。 (雑誌)

(35) 高年齢ほど健康目的でスポーツを行う割合が高い(△大きい)。 (白書)

最後に、「大きい」の使用がより一般的なケースとして、空間に占める比率に注目する場合(例36)があった。この状況は「大きい」の典型的な意味である「面積・寸法などが大である(明鏡①)」と類似しており、「大きい」が使用されるのは極自然であると言える。

(36) 市庁舎にも、ようやく斜め前方から陽が射しはじめ、暗から明への割合が大きくなっていく(△高くなっていく)。 (書籍)

【3】「値が高い／大きい」

明鏡国語辞典によると「値(ね・あたい)⁹」の数値に関連する意味は以下の2つである。

- ①「商品の値段、価格、定価、また代金(以下「値段」)」
- ②「数学で文字や式が表す数量(以下「数量」)」

そのうち①「値段」は(37)に示したように「高い」のみ共起可能で「大きい」は共起できないが、②「数量」は(38)のようにどちらも共起可能である。しかし一方で「数量」の意味を持つ「値」の中には「高い」が共起しにくい例もあった(例39)。

(37) 牛肉は少々値が高い(×大きい)のですが… (書籍)

(38) 腫瘍マーカーCEAは、多くのガンで値が高(○大きく)なりますが、… (書籍)

(39) 光のエネルギーは、振動数が大きいほど、つまり波長が短いほど値が大き(△高く)なる。 (書籍)

表9で示したとおり、物の金額を表す名詞には「高い」が共起することが多く、「値段」を意味する「値」に「高い」が共起しやすいことは理解しやすい¹⁰。一方で「数量」を表す「値」には、(38)のような測定した具体的な数値が想定される場合と、(39)のように抽象化された数そのものの大きさを表す場合がある。前者は測定値の意味タイプの「湿度」「温度」などと類似しており「高い」と共起しやすいが、後者は測定値の意味タイプの「数」と類似した意味特徴を持っており、「大きい」と共起しやすいと考えられる。

【4】「伸びが高い／大きい」

数値に関わる意味の「伸び」は「伸びること。また、その度合い」(明鏡国語辞典)であ

⁹ 本稿の分析では「値」が「あたい」「ね」のどちらの読みであるかを区別せず用例を収集した。

¹⁰ 同じ物の金額を表す名詞でも「金額」の場合には「大きい」が共起可能である。用例数も「金額が高い」が17例、「金額が大きい」は18例でほぼ同じであった。「大きい」が使用されるのは、差額の大きさや累積された金額の総額を示す文脈であり、「金額」においても「総量」という意味が感じられる場合に「大きい」が使用されることが分かる。

例：(NHKの受信料を)払っていないのでだんだん金額が大きくなっていきました

。「二者間の差」の意味タイプに分類した他の「差」「変動」が「大きい」のみ共起可能であることを考えると、基本的に総量を表す「大きい」が使われやすい意味特徴を持っていると考えられる。

しかし以下の(40)の「消費」のような金額に関わる名詞の伸びを表す場合と、(41)のように他の項目と比較して伸びの度合いの大きさを述べる場合の2つの状況では「高い」も使われやすい。他方で、「保育所申込数の伸び」など一つの項目のみの伸びの度合いに着目する(42)のような場合には、「高い」が共起しにくくなる。

- (40) 今回の好況で最も消費の伸びが高かった(○大きかった)のは世帯主が五十代の世帯であるが… (白書)
- (41) 電話通信費を見ても三十代と五十代で伸びが高い(○大きい)。 (白書)
- (42) (横浜市は)待機児童を解消するための施策を進めてきたが、保育所申込数の伸びが大きい(△高い)ため、… (白書)

以上、両形式で共起可能な名詞の場合の「高い」「大きい」の使い分けを検討してきた。その結果として、それぞれの形式が持つ基本的な意味を反映した、ある一定の「高い」「大きい」の使い分けが観察された。本節で指摘した使い分けをまとめると以下の表11のようになる。

表11 共起可能な名詞との「高い」「大きい」の使い分け

	「高い」優勢	「高い」「大きい」	「大きい」優勢
可能性		実現可能性が高い／大きい	潜在的可能性が大きい
割合	(非Aより)AのほうがXの割合が高い	全体に占めるXの割合が高い／大きい	空間の割合が大きい
値	商品の値が高い	測定値が高い／大きい	数字そのものの値が大きい
伸び		・金額の伸びが高い／大きい ・(他と比較して)ある項目の伸びが高い／大きい	(ある数量)の伸びが大きい

6 まとめと今後の課題

本稿では当該の数値が大きいことを表す「高い」「大きい」についてコーパスによる分析を行なった。その結果、それぞれに共起しやすい名詞が明らかになり、「高い」が「当該の数値的表現がある尺度上において上方にある」ことを表すのに対し、「大きい」が「任意の

あるところからあるところまでの総量」を表すことが分かった。また、「高い」「大きい」が両方共起する場合の分析から、使用されるコーパスのジャンルには偏りがなかったものの、用例分析によって「高い」「大きい」の意味を反映した使い分けがあることを述べてきた。

日本語教育では、従来のコーパスを使用した類義語研究の多くが分析対象としている漢語などの中上級語彙は、語彙の提出段階で既に類似した意味の使い分けが問題となる。一方、本稿で取り上げた「高い」「大きい」のような初級語彙は、初出では意味の類似性を持たないものの、中上級で用法が広がることによって、類義用法が問題になるケースである。後者のタイプは中上級で改めて類義用法を学習する機会は少なく、類義語事典の類にも記載されにくい。しかし、アウトプットの際には類義用法の情報が必要であり、本稿が日本語教育の現場に寄与するところがあれば幸いである。今後もそうしたニーズに応えられる分析を積み重ねていきたい。

参考文献

- 秋元美晴 (1999) 「程度名詞と形容詞の連語性」 『日本語教育』 102号: 20-29, 日本語教育学会.
- 大曾美恵子 (2002) 「コーパスから得られるコロケーション情報—「影響、刺激、感動」を中心に—」 『言語文化論集』 第23巻第2号: 3-12, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科.
- 大曾美恵子 (2005) 「コーパスによるコロケーションの特定—日本語学習辞書の充実を目指して—」 影山太郎 (編) 『レキシコンフォーラム』 No.1: 11-23, ひつじ書房.
- 大曾美恵子 (2006) 「日本語コーパスと日本語教育」 『日本語教育』 130号: 3-10, 日本語教育学会.
- 小池生夫・井出祥子・河野守夫・鈴木博・田中春美・田辺洋二・水谷修 (編) (2003) 『応用言語学事典』 研究社.
- 杉村泰 (2012) 「コーパスを利用した複合動詞「V1-通る」の意味分析」 『言語文化論集』 第34巻第1号: 47-59, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科.
- 鄭恵先・小池真理・船橋瑞貴 (2009) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の使い分け—日本語学習者に対する指導への応用—」 『北海道大学留学生センター紀要』 13: 4-21, 北海道大学留学生センター.
- 中溝朋子・坂井美恵子・金森由美・大岩幸太郎 (2011) 「漢語名詞「進歩」と「向上」のコロケーションの異同について」 『大学教育』 第8号: 88-95, 山口大学大学教育機構.
- 中溝朋子・坂井美恵子・金森由美 (2012) 「現代日本語書き言葉均衡コーパスにおける漢語名詞「影響」のコロケーションの特徴—修飾語および述語動詞との共起を中心に—」 『大学教育』 第9号: 79-85, 山口大学大学教育機構.

服部匡 (2011)「名詞と尺度的形容詞類の共起傾向の推移—国会会議録のデータから—」『同志社女子大学学術研究年報』62号: 113-141,同志社女子大学教育・研究推進センター.

茂木俊伸 (2012)「文法的視点からみた外来語—外来語の品詞性とコロケーション—」陣内正敬
他(編)『外来語研究の新展開』,46-61,おうふう.
(生天目知美 東京海洋大学・永井涼子 山口大学)

Use of adjectives “*takai*” and “*ookii*” with nouns concerning numerical number: Illustrations from BCCWJ corpus

NABATAME Tomomi · NAGAI Ryoko

This paper analyzes the differences between two Japanese adjectives, “*takai*” and “*ookii*,” using a Japanese corpus *BCCWJ*. Because both adjectives are used with nouns about numerical number, it is difficult for Japanese learners to understand the differences. First, we place nouns with both adjectives into five categories on the basis of the degree of lexical collocation strength. Then, we analyze the genre of corpus, including sentences with nouns with both adjectives. No difference is noticed in the frequency of the adjectives in each genre, but we observe that either of the adjectives is appropriate in some contexts. Therefore, there is not a close relation between the genres of the corpus but the meaning of the adjectives and the scheme.